

逍 遙 歌



序 誦

静かに去り行く春（夏・秋・冬）の日に、契りし夢も永遠^{とこしえ}に、
ここ千里山上（地名）に花と咲く。
帰らぬ情に駒止どめ、しばしの憩^{いこ}い、共にせん。
さればいざ歌わんかな、舞わんかな、我等が関西大学逍遙の歌
一番、二番、三番……。

逍 遙 歌

(一)

嵐^{つんざく}劈^{おほとり}く鳳の
翼休めし自治の山
緑^{かおり}の香いと高き

千里が丘の春雨に
我等^{にはち}二八の夢に酔う

(二)

金蘭の花散りて無し
千里が丘に月落ちぬ

眺^{かなた}むる彼方白明に

雁^{かりがね}高く鳴きて飛ぶ

嗚呼^あ青春の若き夢

(三)

浪華の都に華と咲く

名も千陵の丈夫^{ますらお}が

葦^{あし}の葉繁れる淀川に

暫^{しば}し咲きけん自治の花

自由の曲ぞ今誦^ずしぬ